

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

東京外国語大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「大学院生全体について特に以下の能力を向上させる。・高度な言語運用能力にいっそう磨きをかける。・異文化に対する豊かな感受性、幅広い視野、世界諸地域の言語、文化、社会についての専門知識を身につけさせる」について、グローバル COE プログラム、大学院教育改革支援プログラムに基づき、大学院課程で高度な言語運用能力と幅広い専門的知識を身に付けさせることを目的としたカリキュラムを充実させたことは、専門的知識を身に付けさせる教育が実質的に機能している点で、優れていると判断される。
- 中期計画「専門研究者を志望する院生に対しては、高い専門性、現地語資料の操作能力、幅広い視野、新しい研究テーマを発見し未開拓の分野を切り開く能力を身につけさせる」について、2つの若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログ

ラム及び2つの組織的な若手研究者等海外派遣プログラムを実施し、大学院博士後期課程の学生15名を海外調査等へ派遣していることや、大学院教育改革支援プログラム等の活動を通して、平成21年度において大学院博士後期課程の学生12名を海外に派遣していることは、研究者育成に関する実績を着実に上げている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「高度専門職業人養成のために、本学の個性を生かし、国際協力、国際コミュニケーション、日本語教育、英語教育、言語情報工学の分野での特化コースにおいて実践的能力を身につけさせる」について、大学院課程の高度職業人養成を視野に入れた「特化コース」が設置されていることは、学部4年次での大学院博士前期課程の授業の先取り履修制度により、大学院進学後1年で修士号取得が可能となっており、その成果として大学院課程の高度専門職業人養成を目的とした専攻への進学者が促進されている点で、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「大学院生の留学機会拡大に努め、臨地体験を持つよう奨励する」及び「研究プロジェクトにPD、大学院生等を積極的に参加させ、研究を通じて教育する」について、大学院生の海外臨地研修機会を提供していること、また大学院生への研究助成を行っていることは、21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラムを通して大学院生の海外臨地教育の充実が促進されており、博士後期課程学生への研究助成が十全に推進されている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「多様なレベルの留学生および外国人研究者を対象とし、学習者の必要性や日本語習熟度に応じた日本語教育の一貫したコースを設置する」について、多様なレベルの留学生を対象とした日本語教育の一貫したコース「全学日本語プログラム」を実施するとともに、平成20年度の質の高い大学教育推進プログラムに採択された「グ

ローバル戦略としての日本語 e-ラーニング」を活用し教材開発等を行っていることは、留学生等を対象とした日本語能力養成の充実を積極的に図っている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「博士前期課程において、大学院課程における専門教育の成果に関する具体的目標を達成するために現行の7専攻を改編して4専攻（言語文化専攻、言語応用専攻、地域研究専攻、国際協力専攻－いずれも仮称）とする」及び「博士後期課程において、平和構築・紛争予防講座を中心にして実践的性格の博士学位の授与を可能とするカリキュラムと指導体制を整備する」について、博士前期課程における高度専門職業人養成系（言語応用専攻、国際協力専攻）を設置、博士後期課程における平和構築・紛争予防講座を整備していることは、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「授業の情報化のための支援やコンテンツ作成の補助等にあたる教育情報化支援室を立ち上げ、情報基盤を利用した授業開発支援体制を確立する」について、総合情報コラボレーションセンターを中心にネットワーク環境が整備されており、TUFS e-learning システム等の自主学習のための体制が構築されていることは、授業コンテンツのデジタル化が図られ、パソコン講習会を開催するなど情報化のための支援実施体制が実質的に機能している点で、優れていると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であったことか

ら、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「留学生向けの独自の奨学金制度を整備する」について、国際教育支援基金が設置されていることは、留学生向けの独自の奨学金制度を整備・実現しているという点で、優れていると判断される。
- 中期計画「学生に対する経済支援のための本学独自の奨学金制度等の実現に向けて検討する」について、大学独自の奨学金制度等を創出し、留学生及び海外に留学する日本人学生を対象とした「国際教育支援基金」による奨学金の給付、平成 20 年度における留学生を対象とした「円高に伴う私費留学生緊急支援奨学金」の給付及び「東京外国語大学留学生緊急支援基金」等を創設し、実績を着実に上げていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「学生委員会を中心に、課外活動のあり方を検討するとともに、学園祭実行委員会やサークル団体等と定期的に会合を持つなど相談と支援の体制を強化する」について、特色ある大学教育支援プログラム「生きた言語修得のための 26 言語・語劇支援」の活動が意欲的に行われていることは、特色ある取組であると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「学生に対する経済支援のための本学独自の奨学金制度等の実現に向けて検討する」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のうち、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

（参考）

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「世界諸地域の言語、文化、社会に関する学際的かつ先端的な研究活動を推進する」について、21 世紀 COE プログラム 2 件、グローバル COE プログラム 1 件、委託事業 2 件、科学研究費補助金特別推進研究 1 件、特定領域研究 2 件をはじめ、140 件以上の科学研究費補助金による研究プロジェクトを推進していること、また、重点的研究として掲げている「中東イスラーム研究教育プロジェクト」等についても、研究水準が高く評価されており、世界諸地域の言語、文化、社会に関する学際的・先端的な研究において優れた成果をあげていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「研究活動を通じて蓄積された知的資産や学術情報、収集された史資料、データベース等を可能な限りインターネットを通じて公開する」について、学術情報の電子化が進められデータベース等の形で提供されていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「アジア・アフリカの言語文化に関する国際的な研究拠点として、国際的な広がり水準をもった共同研究プロジェクトを推進する」について、特別教育研究経費による「急速に失われつつある言語多様性に関する国際研究連携体制の構築」プロジェクトを平成 20 年度より開始し、積極的な若手研究者のトレーニングプログラム及び研修派遣、オンライン研究交流環境の構築等を行っていることは、言語多様性と類型に関する研究交流・共同研究を活発に展開している点で、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画「フィールドサイエンス研究企画センター(FSC)を設置し、海外学術調査総括班の活動をさらに強化して学術情報の収集・発信を行い、地域関連諸研究機関のネットワークの拠点構築をめざす」について、アジア・アフリカ言語文化研究所のフィールドサイエンス研究企画センターが活発に活動を推進していることは、優れていると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「本学の特色ある研究成果を知的財産化する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、平成 20 年度に東京外国語大学出版会を設立し、研究成果を出版物として、書籍 5 冊と雑誌 1 種を発行する実績を上げていることから、「良好」となった。

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のうち、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「大学の授業を市民に開放し、生涯学習に寄与する「市民聴講生制度」を開設する」について、市民聴講生制度に基づき、一般市民に対し学部の授業を開放し、世界諸地域の言語・文化・社会についての聴講ができることは、一般市民にとって希少な学習機会であり、生涯教育資産を提供している点で、優れていると判断される。また、中期計画「国際理解、国際交流を推進するために、講演会等の開催、地域社会と外国人留学生の交流、高校等の国際理解教育への協力を推進する」について、現代的教育ニーズ取組支援プログラム「在日外国人児童生徒への学習支援活動」による地域の外国籍児童に対する支援活動、小・中学校での国際理解教育支援活動は、東京外国語大学の教育資産を地域社会に提供している点で、優れていると判断される。
- 中期計画「海外の教育機関に関する情報提供を行うとともに、本学学生の海外留学・研修を推進する」について、平成 20 年度の新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムに採択された「e-アラムナイ協働による学生留学支援」を活用し、卒業生による在籍中の学生の海外留学に係る支援策として e-アラムナイ SNS の運用を開始していることは、学生への海外留学・研修支援を積極的に推進している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「英語特別プログラムを通じて平和構築・紛争予防に寄与する人材を育成する」及び「アフガニスタン等において、国際協力団体との連携等を通じて国際協力事業に寄与する」について、大学院教育改革支援プログラム「平和構築・紛争予防修士英語プログラム」において、紛争地域から留学生を受け入れていること、アフガニスタン文字文化財保存支援室及びアチェ文化財復興支援室が設置されていることは、ともに国際交流の積極的推進に意欲的に取り組んでいる点で、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「海外の教育機関に関する情報提供を行うとともに、本学学生の海外留学・研修を推進する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）